



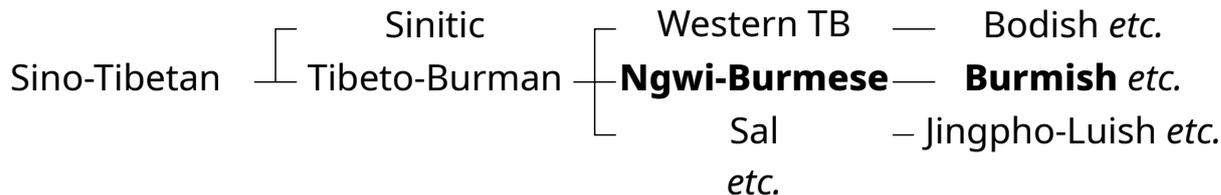
LingDy ウェビナーシリーズ
2020/12/22

ビルマ系言語の格標識を比較する

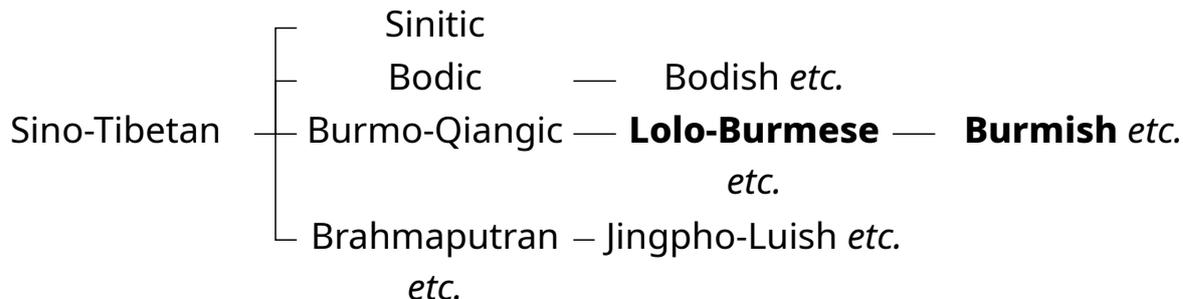
澤田 英夫
東京外国語大学 AA 研

ビルマ系言語 Burmish

Ethnologue の系統分類



Glottolog の系統分類



Ethnologue の Ngwi と Glottolog の Lolo は、だいたい同じものを指すと思ってください。

- 「ビルマ語によく似た言語」のグループ (Burmish) があり、それが Ngwi-/Lolo-Burmese という、より大きな言語群に属する。
- Burmish が北部と南部の 2 語群に分類される。

北部語群 (ミャンマーのカチン州・シャン州, 中国雲南省)

- 隴川アチャン(フサ = アチャン/タイ_{シエンダオ} = サ一), 潞西アチャン, 梁河アチャン, 仙島 (ラサ = アチャン)*
- ツアイワ(アツイ)
- ラチッ(ラシ), チャシャンンゴーチャン(茶山)
- **ロンウォー(マル/ラウンビツ = ダゴツ),
ワカウツ*, トッラン*, ラキン*, ランスー***
- パラ
- ポン

南部語群(ミャンマー, バングラデシュ)

- **ビルマ**
- インダー
- ダヌ
- タウンヨウ
- ヨー*
- ダウエー
- ラカイン
- マルマ

* は Glottolog の系統図に現れないもの。太字は本日のトークで扱うもの。



- ロンウォー（ラウンビツ＝ダゴツ）はロンウォー人の多数派を占める下位集団によって話される。
- ワカウツ， トッラン， ラキン， ランスーも， ロンウォー人の地域的な下位集団によって話される。
- これらが単一言語の方言なのか，あるいは別言語なのかについて，現時点では確たることは言えないが，これ以降では一律「語」を付けて言及することにする。

このトークの内容は，Sawada (2018) の発表内容の一部を再構成したものの。

格標識

case (n.) (1) A GRAMMATICAL CATEGORY used in the analysis of WORD-classes (or their associated phrases) to identify the SYNTACTIC relationship between words in a SENTENCE, through such contrasts as NOMINATIVE, ACCUSATIVE, etc.

(Crystal, 2008, 66)

名詞句／名詞節の**主動詞に対する**文法的・意味的關係を標示する小辞類のみを、本日のトークで比較する対象とする。

小辞類以外に、名詞が文法化して（主に周辺的な）意味的關係を標示するようになったもの（格名詞）もあるが、これも比較する対象から外す。

格標識の目録 (1) 北部語群「ロンウォー・グループ」

	ロンウォー	ワカウツ	トッラン	ランスー
位格 LOC	$-men^F$	$-re^{21} \sim -ri^{21}$	$-te^{22}$	$-ma^{21}$
起格 ABL	$-men^H$	$-mji^{22}$	$-i^{55\sim 53}$	$-a^{55} / -a^{55}si^{21}$
向格 ALL	$-k^hjo^F$	$-ka^{21}$	$-k^hja^{22}$	$-k^hja^{53}$
通格 PER	$-k^hjo^H$	$-ka^{55}$	$-k^hja^{53}$	$-k^hja^{55} / -k^hja^{55}si^{21}$
共格 COM	$-e\gamma^H$	$-e\gamma^{53} \sim -i\gamma^{53}$	$-\gamma a^{53}$	$-e\gamma^{53} / -e\gamma^{53}si^{21}$
具格 INS	$-TAjan^F$	—	—	$-si^{21}$
対格 ACC	$-re^F$	—	—	—

ロンウォー語の声調表記 F: 21, L: 22, H: 44

ロンウォー語の TA は直前音節に声調交替を引き起こす抽象的な要素。詳細は後に。

格標識の目録 (2) ビルマ語

	文語ビルマ語	口語ビルマ語
位格 LOC	<i>-hnaiʔ*</i> / <i>-hma^L</i> / <i>-twin^L</i> 「中に」	<i>-hma^L</i>
起格 ABL	<i>-hma^{C*}</i>	<i>-ka^C</i>
向格 ALL	<i>-so^{C*}</i>	—
共格 COM	<i>-hnin^{C*}</i>	<i>-ne^C</i>
具格 INS	<i>-phyin^{C*}</i>	—
対格 ACC	<i>-ko^{L*}</i> / <i>-ʔa^{H*}</i> (有生物のみ)	<i>-ko^{L*}</i>

ビルマ語の声調表記 L(evel): 22, H(eavy): 44, C(reaky): 41 + きしみ音。なお, -ʔ で終わる音節は声調の対立を示さないため, 声調表記もない。

* のついた形式は, AD12-13c の碑文にまで遡ることのできる形式。

標識が表す「格関係」の分類

		名詞句の意味的素性	
		場所名詞	それ以外
主動詞に よって 要求	される	着点	S, A, P-受領者, S/A/P の相方
	主動詞による	位置, 起点, 経由点	
	されない		道具, 随伴者

- 時間を表す名詞は場所名詞に含めて考える。
- S(自動詞の主語), A(他動詞の主語), P(他動詞の目的語)
- 受領者は有生のPと同じふるまいをする。

場所名詞と共起する格標識

意味役割	「ロンウォー・グループ」				ビルマ語	
	ロンウォー	ワカウツ	トッラン	ランスー	文語	口語
位置 (空間・時間)	位格 <i>-men^F</i>	位格 <i>-re²¹~ri²¹</i>	位格 <i>-te²²</i>	位格 <i>-ma²¹</i>	位格 <i>-hnai?</i> etc.	位格 <i>-hma^L</i>
(時間のみ)	対格 <i>-re^F</i>					
起点 (空間・時間)	起格 <i>-men^H</i>	起格 <i>-mji²²</i>	起格 <i>-i^{55~53}</i>	起格 <i>-a⁵⁵(si²¹)</i>	起格 <i>-hma^C</i>	起格 <i>-ka^C</i>
着点 (空間のみ)	向格 <i>-k^hjo^F</i>	向格 <i>-ka²¹</i>	向格 <i>-k^hja²²</i>	向格 <i>-k^hja⁵³</i>	向格 <i>-so^C</i>	対格 <i>-ko^L</i>
経由点 (空間のみ)	通格 <i>-k^hjo^H</i>	通格 <i>-ka⁵⁵</i>	通格 <i>-k^hjaj⁵³</i>	通格 <i>-k^hja⁵⁵(si²¹)</i>	起格 <i>-hma^C</i>	起格 <i>-ka^C</i>

場所・起点・着点

(1) 口: $jan^F kun^L - meŋ^F na^F - TA$.
Yangon-**LOC** stay-RLS

(私は) ヤンゴンに住んでいる。

ワ: $jan^{22} kun^{22} - re^{21} nak^{21} - TA$.
Yangon-**LOC** stay-RLS1

同上

(2) 口: $pam^F - p^h jo^L - meŋ^H vo^F - k^h jo^F lo^F - TA$.
mountain-tip-**ABL** village-**ALL** come_H-RLS

(私は) 山上から村に戻ってきた。

ワ: $jan^{22} kun^{22} - mji^{22} mǎ^{22} tʃi^{55} na^{55} (-ka^{21}) lo^{21} - TA$.
Yangon-**ABL** Myitkyina(-**ALL**) come_H-RLS1

(私は) ヤンゴンからミッチーナーに戻ってきた。

ロンウォー語には声調交替の現象が見られ、ある特定の環境で、 F が L に、 L が H に交替する (H はそのまま)。

この現象を説明するため、発表者は声調交替を引き起こす抽象的な要素 TA を仮定し、これが現実法の文標識、名詞修飾標識、動詞の等位接続子などの機能を果たすと分析する。例えば、(1) の $na^F - TA$ は na^L として実現する。

ワカウツ語にも $21 \rightarrow 22, 22 \rightarrow 55$ の声調交替が見られる (55 はそのまま) ので、同様に TA を仮定する。

着点を標示する格標識が主動詞の直前で脱落する現象は、他のビルマ系言語でも見られる (着点が固有地名の場合に多い。)

- (1) ト: *jaŋ²²kuŋ²²-te²¹ naŋ²²-ɣa²² ...* (2) ト: *paŋ²²-i⁵³ va⁵³-k^hja²¹ la⁵³-le²².*
 Yangon-**LOC** stay-**CONJ** mountain-**ABL** village-**ALL** come_H-**SFP**
 (私は) ヤンゴンに住んで... (私は) 山から村に戻ってきた。
- ラ: *jaŋ²¹-xi⁵⁵-ma⁵⁵ ni²¹-ni²¹.* ラ: *pəm²²-saŋ⁵⁵-a⁵⁵ wə²ɣəŋ²¹-k^hja⁵³ la²¹-a²¹.*
 he-front-**LOC** stay-**RLS2** mountain-tip-**ABL** village-**ALL** come_H-**RLS1**
 (私は) 彼のところに住んでいる。 (私は) 山上から村に戻ってきた。
- 文ビ: *yaŋ^Lgoun^L-hnai[?] ne^L^t̪i^L.* 文ビ: *taun^L-t^hei[?]-hma^C ywa^L^to^C la^L^t̪i^L.*
 Yangon-**LOC** stay-**RLS** mountain-peak-**ABL** village-**ALL** come_H-**RLS**
 (私は) ヤンゴンに住んでいる。 同上
- 口ビ: *yaŋ^Lgoun^L-hma^L ne^L^tɛ^L.* 口ビ: *taun^L-t^hei[?]-ka^C ywa^L^ko^L la^L^tɛ^L.*
 Yangon-**LOC** stay-**RLS** mountain-peak-**ABL** village-**ACC** come_H-**RLS**
 同上 同上

ビルマ語の後接辞で初頭子音 *p, p^h; t̪, t^h; k, k^h, c, c^h; s, s^h* を持つものは、直前の音節が-ʔ以外で終わる場合に初頭子音が有声化する。^ は後続子音が有声化を起こす語境界を表わす。

向格標識 ALL と名詞「道」

	ロンウォー	ワカウツ	トッラン	ランスー	文語ビルマ
「道」	k^hjo^F	k^hjo^{21}	$k^hjä^{22}tan^{22}$	k^hja^{53}	lan^H
「歩く」	$k^hjo^F+su^L-$	$k^hjo^{21}+sim^{55}-$	$k^hja^{22}+su^{53}-$	$k^hja^{53}+so^{22}-$	$lan^H+əauʔ-$
向格標識 ALL	$-k^hjo^F$	-ka²¹	$-k^hja^{22}$	$-k^hja^{53}$	$-tə^C$

20世紀初頭のロンウォー語を記述した Clerk (1911) は、 k^hjo^F が位格標識 $-meŋ^F$ を伴って着点を標示するとみられる例を挙げている。

- (3) Chè yauk änyit-nèt yaw kyaw mè yè lawng ...
 $ç^he^L$ $jauk^F$ $ʔäni^H n'eʔ^F$ jo^F **$-k^hjo^F$** **$-meŋ^F$** je^L $-lon^H$
 this CLF:person yesterday field **-road** **-LOC** go -TEMP

'This man went to the taungya yesterday and ...' 原義：'on/along the road to' ?

(澤田 2008, p.190. 1行目と自由訳は Clerk 1911, Part III, Exercise XXI, No.2. p.90 から取ったもの。2行目は協力者の助けを借りて1行目の音韻形式を再構成したもの。)

Clerk はまた、位格標識-*meŋ*^F が (4) のように移動の着点を標示する例も挙げている。

- (4) Yawngnaung r̀è mächit rong m̀è ỳè gǎ shawng
joŋ^L-*n'auŋ*^H -*re*^F *mäch*^H*it*^H -*ruŋ*^L -*meŋ*^F *je*^L -*kě* -*foŋ*^L
 he-PLR -ACC medicine -office **-LOC** go -PLS -OPT
- maw kǎr̀è ...
m'o^F -*yǎre*^L
 tell -though

'... though they are told to go to the hospital ...' (澤田 2008, p.217. 1 行目と自由訳は Clerk 1911, Part III, Exercise XXI, No.40. p.99 から取った。)

おそらくロンウォー語の *k^hjo*^F は文法化して語彙的実質を失い、位格標識-*meŋ*^F なしで移動の着点を標示するようになったのだろう。

同様のことがワカウツ語を除く「ロンウォー・グループ」の言語にも起こったと考えられる。

経由点

(5) □: $mo^L to^L -k^h jo^F -k^h jo^H$ $su^{33} -TA$.
 car-road-**PER** walk-RLS

車道を通して歩いた。

ワ: $t^h e^5$ $k^h jo^{21} -ka^{55}$ $ji^{22} -TA$.
 this.DET road-**PER** go-RLS1

この道を通して行った。

ト: $mo^{22} to^{22} -k^h ja^{22} -k^h jaj^{53}$ $su^{55} -xo^{53}$.
 car-road-**PER** walk-?

車道を通して歩いた。

ヲ: $mo^{22} to^{22} -k^h ja^{53} -k^h ja^{55}$ $so^{22} -a^{21}$.
 car-road-**PER** walk-RLS1

同上

□ビ: di^L $lan^H \wedge ka^C$ $(ne^L (\wedge pi^H))$
 this.DET road-**ABL** stay-SEQ

$twa^H \wedge t\varepsilon^L$.
 go-RLS

この道を通して行った。

口語ビルマ語の $(ne^L (\wedge pi^H))$ は従属節（あるいはその縮約されたもの）で、**ABL** が経由点だけでなく起点を標示する場合にも現れるが、単なるフィラーなのか、それ以上の役割を果たすのかはよくわからない。

通格標識 PER の構成

■ パターン 1: PER = 「道」+ 起格標識 ABL

ト: $-k^h j a^{53} < k^h j a^{22} + -i^{53}$

ラ: $-k^h j a^{55} (s i^{21}) < k^h j a^{53} + -a^{55} (s i^{21})$

原義 'from the road to ...' から経由点の意味が生じたものと思われる。

■ パターン 2: PER が ALL/「道」と分節形式を共有

ロ: $-k^h j o^H$ cf. $-k^h j o^F$ 'ALL/road'. #PER の声調は ABL と同じ。

ワ: $-k a^{55}$ cf. $-k a^{21}$ 'ALL'

ロンウォー語の PER も「道」と結びつけて考えることができそうだが、詳細は不明。ワカウツ語の PER は由来そのものが不明。

時間的位置

(6) 口: *pyit^F-joʔ^Fɣuk^F-men^F/-re^F*
four-hour-**LOC/ACC**

4 時に

ワ: *k^hjiŋ⁵⁵ pyik²¹-lam²²-ri²¹*
hour four-CLF:default-**LOC**

同上

ト: *k^ha⁵no²¹-na²²ji²²-te²²*
how.much-hour-**LOC**

何時に

ラ: *k^hjiŋ²² mji²¹-k'u⁵⁵-ma²²*
time four-CLF:default-**LOC**

4 時に

口ビ: *le^H-na^Lyi^L-hma^L*
four-hour-**LOC**

4 時に

ロンウォー語のみ、LOC の他に ACC によっても時間的位置が標示される。

多くの場合、両者は交替可能であるが、話者によっては一方の適格性が他方より落ちることもある。

また、一部の慣用的表現では一方のみが許容される。

例 口: *mji^H-re^F/*-men^F* 夜に

開始点と限界点

- (7) 口: *tǎ-pa^F-meŋ^H* *k^hjauk^H-pa^F* *tʃø^H-ʃoʔ^H*
 one-CLF:day-ABL six-CLF:day arrive-extent
- ワ: *ta²-pɔk²¹-mji²²* *k^hjip⁵³-pɔk²¹* *tʃwi⁵⁵-ʃoʔ⁵³*
 one-CLF:day-ABL six-CLF:day arrive-extent
- ト: *ta²-paw²²-i⁵³* *k^hjok⁵³-paw²²* *tʃu²²-ʃaʔ²¹*
 one-CLF:day-ABL six-CLF:day arrive-extent
- ラ: *ta²-ni²²-a⁵⁵si²¹* *k^hjuʔ⁵³-ni²²* *tʃwe²²-saʔ²¹*
 one-CLF:day-ABL six-CLF:day arrive-extent
- 口ビ: *tǎ-yeʔ-ne^C-ka^C* *c^hauʔ-yeʔ-ne^C* *ʔǎ-t^hi^C*
 one-CLF:day-day-ABL six-CLF:day-day NPRF-touch

1日から6日まで

限界点は動詞「到着する」(ロンウォー・グループ)・「触れる」(ビルマ語)から複合・派生によって作られた格名詞によって標示される。

場所名詞以外と共起する格標識 (1)

意味役割	ロンウォー	「ロンウォー・グループ」		ランスー	文語	ビルマ語 口語
		ワカウツ	トツラン			
随伴者・ S/A/P の相方	共格 <i>-eʔ^H</i>	共格 <i>-eʔ⁵³ ~ -iʔ⁵³</i>	共格 <i>-ɣa⁵³</i>	共格 <i>-eʔ⁵³ (si²¹)</i>	共格 <i>-hnin^C</i>	共格 <i>-nɛ^C</i>
道具	共格	共格	共格			共格
	具格 <i>-TAjan^F</i>			具格 <i>-si²¹</i>	具格 <i>-p^hyin^C</i>	
	通格 <i>-k^hjo^H</i>	通格 <i>-ka⁵⁵</i>		通格 <i>-k^hja⁵⁵ (si²¹)</i>		

随伴者

(8) ロ: $\eta o^F - a^F$ $\eta a^H - paj^L - e\eta^H$ $k'at^H$ $je^L - TA$.
 I-TOP my-e.sister-COM market go-RLS
 私は私の姉と市場に行った。

ワ: $\eta o^{21} - a^{21}$ $\eta a^{55} - paj^{22} - e\eta^{53}$ $k'at^{53}$ $ji^{22} - TA$.
 I-TOP my-e.sister-COM market go-RLS1
 同上

ト: ηa^{22} $\check{a}^2 paj^{55} - ya^{53}$ ($t\check{a}^2 kaj^{21}$) $k'at^{53}$ je^{22} .
 I e.sister-COM (together) market go
 同上

ラ: $ja\eta -^{21} ma\eta^{21} - lo^{21}$ $ja\eta -^{21} - k'u^{21} - e\eta^{53} (si^{21})$ $k'at^{55}$ $\eta aj^{21} - a^{21} - k'a^{21}$.
 PRF-e.brother-TOP PRF-y.brother-COM market go-RLS1-PLS
 兄は弟と市場に行った。

「ロンウォー・グループ」に属する言語の頭子音には、通常音 C: きしみ音 C': 有気音 C^h の 3 系列の対立がある。

(8) 文ビ: $cun^L d\text{ɔ}^L \wedge t\text{ɕ}^L$ $\text{ʔ}\check{a}ma^C$ -**hnin^C** $ze^H \wedge t\text{o}^C$ $t\text{wa}^H \wedge t\text{ɕ}^L$.
 I-TOP e.sister-COM market-ALL go-RLS

私は姉と市場に行った。

口ビ: $c\check{a}no^L$ $\text{ʔ}\check{a}ma^C$ -**nɛ^C** ze^H $t\text{wa}^H \wedge t\epsilon^L$.
 I e.sister-COM market go-RLS

同上

S/A/P (後述) の相方を表す NP も、同じく共格で標示される。

(9) 口: $jo\eta^L$ $jo\eta^H$ - $p^h o^H$ -**e^H** tau^F -TA.
 he his-father-COM resemble-RLS

彼は父親に似ている。

さらに、名詞の等位接続子も共格と同じ形式である。

(10) 口: ηo^F -**e^H** $jo\eta^L$ ト: ηa^{22} -**ya⁵³** jo^{21} 口ビ: $t\text{u}^L$ -**nɛ^C** $c\check{a}no^L$
 I-COORD he I-COORD he he-COORD I

道具

(11)口: *mji^L?am^F-TAjan^F/-e?^H* *ŋ'o?^H* *pak^F-TA.*
 gun-**INS**/-**COM** bird-LOC shoot-RLS

鉄砲で鳥を撃った。

ロンウォー語の INS の前
 では必ず声調交替が起こる。
 (→*mji^L?am^L-jan^F*)

ワ: *ŋo²¹* *k^he⁵⁵tan²¹-i?⁵³* *laj²¹ka²²* *t'o²²-TA.*
 I pencil-**COM** letter write-RLS1

私は鉛筆で手紙を書いた。

ト: *ŋa²²* *k^he⁵⁵tan²²-ya⁵³* *mi²²ji⁵³* *t'u²²-i²¹.*
 I pencil-**COM** letter write-?

同上

ラ: *la²¹-?u²²-ma²¹* *sam⁵⁵-si²¹* *ɣam²²-ma²¹.*
 tiger-head-LOC knife-**INS** slash-RLS1

虎の頭に刀で切りつけた。

(11)文ビ: *cun^Lɔ^Lʌt̚i^L* *k^hɛ^Hdan^L-p^hyin^C* *sa^L* *ye^Hʌt̚i^L* .
 I-TOP pencil-**INS** letter write-RLS

私は鉛筆で手紙を書いた。

口ビ: *cǎnɔ^L* *k^hɛ^Hdan^L-nɛ^C* *sa^L* *ye^Hʌt̚ɛ^L* .
 I pencil-**COM** letter write-RLS

同上

意味役割「道具」の下位類（ロンウォー語の例）

■代価

(12)口: *ʔǎj^L* *ŋauj^F-TAjan^F/-eʔ^H* *ɣʌŋ^F-ɣuj^L* *vaj^F-TA* .
 that.DET money-**INS/-COM** gold-necklace buy-RLS

そのお金で、金の首飾りを買った。

■原因

- (13)口: *mjit^Flap^F-TAjan^F/*-eʔ^H* *j'am^F* *pjoʔ^F-TA-kjo^H-TA.*
 earthquake-**INS/-COM** house break-&-fall-RLS

地震で家が倒壊した。

■移動手段

- (14)口: *t^hø^L* *t'εʔ^H-khjo^F* *l'a^F-khjo^H/*-eʔ^H* *kau^L-TA.*
 that.DIST.DET bank-ALL boat-**PER/-COM** cross-RLS

向こう岸にボートで渡った。

■媒体

- (15)口: *l'on^F-mjan^H-khjo^H/*-eʔ^H* *t'a^H-TA-k'jo^L-TA.*
 Lhaovo-language-**PER/-COM** speak-&-hear.CAUS-RLS

ロンウォー語で語り聞かせた。

#COM でしか標示できない「道具」の下位役割はロンウォー語には存在しないようである。

場所名詞以外と共起する格標識 (2)

意味役割	「ロンウォー・グループ」				ビルマ語	
	ロンウォー	ワカウツ	トッラン	ランスー	文語	口語
S	∅	∅	∅	∅	∅	∅
A	∅	∅	∅	∅	∅	∅
* 非話題	具格 <i>-TAjan^F</i>			具格 <i>-si²¹</i>		
P	∅	∅	∅	∅		∅
* 差別的	対格 <i>-re^F</i>	位格 <i>-re²¹ ~ -ri²¹</i>	位格 <i>-te²²</i>	向格 <i>-k^hja⁵³</i>	対格 <i>-ko^L / (人間のみに) -ʔa^H</i>	対格 <i>-ko^L</i>
受領者	対格	位格	位格	向格	対格	対格

∅ は格標識・格名詞など格を標示する要素が付かないことを表す。

P: 標識なし

(16)口: $\eta\alpha^F$ **pat^H-boŋ^Ltso^Lk^ham^L** $pe\gamma^F$ -TA-k^hjø^{γH}-TA.
 I **glass-window** hit-&-smash-RLS

私は窓ガラスを割った。

ワ: $\eta\alpha^{21}$ **k^hɔk⁵³ tǎ²-tim²²** $pe\gamma^{21}$ -TA.
 I **dog one-CLF:animal** hit-RLS1

私は1匹の犬を打った。

ト: $\eta\alpha^{22}$ **vi²² ta²²-ea⁵³** .
 I **rice** cook-eat

□ピ: $cǎn\alpha^L$ **t^hǎmin^H** $c^h\varepsilon\gamma$ -sa^H∧tε^L .
 I **rice** cook-eat-RLS

私は飯を炊いて食べた。

私は飯を炊いて食べた。

ラ: $\eta\alpha^{22}$ **jan⁵⁵-je²¹ na²²k^hjap⁵³** $lan\eta^{22}$ - $\eta\alpha^{21}$.
 I **he-ATTR** **ear** pull-RLS1

私は彼の耳を引っ張った。

差異的な P 標示

(17) Factors of $-re^F$ marking of P in Lhaovo

- i. P non-adjacent to V: intervention by A
 - ii. P non-adjacent to V: intervention by other NP(s) than A/subordinate clause(s)
 - iii. Human P**
 - iv. Specific and Discourse-old P
 - v. Complex/Long P
 - vi. Contrasted/Emphasized P
- (Sawada 2012, 31, 若干修正)

ロンウォー語以外の「ロンウォー・グループ」の言語でも、要因 iii. の関与は認められている。

人間の P - 受領者

(18)口: ηo^F $n'aun^L t^h o\eta^H$ **-re^F** $pe\eta^F$ -TA.

I y.brother-**ACC** hit-RLS

私は弟を打った。

(19)口: ηo^F $n'aun^F tso^L$ **-re^F** $t'un^H p'auk^H$ $t\check{a}^F$ - $p'auk^H$ $pjit^L$ -TA.

I y.brother-**ACC** book one-CLF:book give-RLS

私は弟に本を 1 冊与えた。

(18)ワ: $j\check{a}^2$ - ma^{22} $j\check{a}^2$ - $n'o\eta^{22}$ **-ri²¹** $pe\eta^{21}$ -TA.

PRF-e.brother PRF-y.brother-**LOC** hit-RLS1

兄が弟を打った。

(19)ワ: $j\check{a}^2$ - ma^{22} $j\check{a}^2$ - $n'o\eta^{22}$ **-re²¹** $\int i^5 t^h wi^{53}$ $pjik^{22}$ -TA.

PRF-e.brother PRF-pencil-**LOC** orange give-RLS1

兄が弟にオレンジを与えた。

(18)ト: ηa^{55} $n'o\eta^{55}$ $t^h o^{21}$ **-te²²** naw^{53} .

I y.brother-**LOC** hit

私は弟を打った。

(19)ト: ηa^{22} $n'o\eta^{55}$ ea^{53} **-te²²** mi^{22} ji^{53} $p'ok^{21}$ $t\check{a}^2$ - $p'ok^{21}$ $tʃaj^{53}$.

I y.brother-**LOC** book one-CLF:book give

私は弟に本を1冊与えた。

(18)ラ: jan^{21} - man^{21} - lo^{21} jan^{21} - ku^{21} - **$k^h ja^{53}$** yuk^{21} - a^{21} .

PRF-e.brother-TOP PRF-y.brother-**ALL** slash-RLS1

兄が弟を打った。

(19)ラ: jan^{21} - **$k^h ja^{53}$** $k^h ji^{55}$ ren^{55} $\eta'a^{22}$ - a^{21} .

he-**ALL** bicycle borrow-RLS1

彼に自転車を与えた。

(18)文ビ: *cun^Ldɔ^Lʌtj^L ñi^L-le^Hʌko^L yaiʔ-tj^L.*

I-TOP y.brother-DIM-ACC hit-RLS

私は弟を打った。

(19)文ビ: *cun^Ldɔ^L ñi^L-le^H-ʔa^H sa^Lʔouʔ tǎ-ʔouʔ pe^Hʌtj^L.*

I y.brother-DIM-ACC book one-CLF:book give-RLS

私は弟に本を1冊与えた。

「仕える」「拝む」「憐れむ」「尊ぶ」「信仰する」「苦しめる」などの動詞のPが^{-ʔa^H}で標示される例が確認されている。

(18)口ビ: *cǎnɔ^L ñi^L-le^Hʌko^L yaiʔ-tɛ^L.*

I y.brother-DIM-ACC hit-RLS

私は弟を打った。

(19)口ビ: *cǎnɔ^L ñi^L-le^Hʌko^L sa^Lʔouʔ tǎ-ʔouʔ pe^Hʌtɛ^L.*

I y.brother-DIM-ACC book one-CLF:book give-RLS

私は弟に本を1冊与えた。

具格によって標示される A (ロンウォー語・ランスー語)

(20)口: *ŋo^F-re^F paj^L-mo^H-TAjan^F peʔ^F-TA.*

I-ACC e.sister-AUG-**INS** hit-RLS

私を姉が打った；(意訳) 私は姉に打たれた。

ラ: *jan²¹-man²¹-si²¹ jan²¹-ku²¹-k^hja⁵³ yuk²¹-a²¹.*

PRF-e.brother-**INS** PRF-y.brother-ALL slash-RLS1

(意訳) 兄に弟が打たれた。

- Sawada (2012) では、ロンウォー語の **INS** が段落を通しての話題になっていない A を標示するという分析を示した。
- ランスー語の **INS** が同様に分析されるかどうかはさらに検討する必要があるが、ランスー語の協力者もロンウォー語の協力者同様、(20) のような文が「英語の受動態のような意味を表す」と説明する。

ロンウォー語の対格標識-*re*^Fは位格標識に由来する？

意味役割	ロンウォー	ワカウツ	トッラン	ランスー	口語ビルマ
位置 (空間・時間)	位格 <i>-men</i> ^F	位格 <i>-re</i> ²¹ ~ <i>-ri</i> ²¹	位格 <i>-te</i> ²²	位格 <i>-ma</i> ²¹	位格 <i>-hma</i> ^L
(時間のみ)	対格 <i>-re</i> ^F				
差別的 P	対格 <i>-re</i> ^F	位格 <i>-re</i> ²¹ ~ <i>-ri</i> ²¹	位格 <i>-te</i> ²²	向格 <i>-k^hja</i> ⁵³	対格 <i>-ko</i> ^L

- ・形がワカウツ語の位格標識に似ている。
- ・果たす機能の範囲も、ワカウツ語の位格標識の機能範囲の部分集合になっている。
- ・もともとはロンウォー語でもワカウツ語と同様、古い位格標識-*re*^Fが空間的・時間的位置を標示し、それが差別的 P 標示の機能を獲得した。
- ・後に、新しい位格標識-*men*^Fが入ってきて、空間的位置を標示する機能は専ら-*men*^Fが果たすようになった。(また、時間的位置の標示にも用いられるようになった。)

略号

&: 動詞等位接続子, ABL: 起格標識, ACC: 対格標識, ALL: 向格標識, ATTR: 名詞修飾標識, AUG: 指大辞, CAUS: 使役, CLF: 類別詞, COM: 共格標識, CONJ: 単純接続の従属節標識, COORD: 名詞等位接続子, DET: 限定詞, DIM: 指小辞, DIST: 遠称, _H: 主語の定位置への移動, INS: 具格標識, LOC: 位格標識, NPRF: 名詞化前接辞, OPT: 祈願法の文標識, PER: 通格標識, PLR: 名詞の複数表示, PLS: 複数主体を表す助動詞, PRF: 前接辞, RLS: 現実法肯定の文標識, SEQ: 継起の従属節標識, SFP: 文末後置詞, TEMP: 時の従属節標識, TOP: 話題標識

参考文献

- Clerk, F. V. (1911) *A Manual of the Lawngwaw or M̃aru Language*: Rangoon: American Baptist Mission Press.
- Crystal, David (2008) *A Dictionary of Linguistics and Phonetics, 6th edition*: Blackwell Publishing.
- Sawada, Hideo (2012) "Optional marking of NPs with core case functions P and A in Lhaovo," *LTBA*, Vol. 35-1, pp. 15–34.
- (2018) "Comparing a few grammatical aspects of northern burmish languages," Presentation material, the 51th International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics, Kyoto University.
- 澤田 英夫 (2008) 「20世紀初頭のロンウォー語資料」, Fujishiro, Setsu and Masahiro Shogaito eds. *Dynamics in Eurasian Languages*, Kobe City College of Nursing, pp. 177–245.